

このコーナーは、
営農指導員から、農業のちょっと
したコツを、お知らせします。

野菜作りの ワンポイントアドバイス

営農指導員 若山 譲
わかやま ゆずる

梅雨の合間に 効率的に作業しましょう！

6月は梅雨に入り、過湿になりやすい時期です。この時期の野菜の管理は、収量や品質の良し悪しを左右する重要な時期です。夏の野菜は成長が早いので、野菜に合わせた栽培メモなどを作り、限られた時間を効率的に使えるようにしましょう。

主な野菜の管理

スイカは旺盛につるを伸ばし、花が咲き着果します。人工受粉をすると安心できます。

ナスやトマト、キュウリなどは不要なわき芽を取り除きます。

スイートコーンは一番上の雌穂以外を取り除きます。そうすると栄養分を集中させ、おいしい実になります。

また芽かきを適時行うことで、葉が茂り過ぎず、風通しや日当たりが良くなり、生育が良くなります。さらに、病害虫の被害にかかりにくくなります。

病害虫の防除

暖かくなってくると、病気や害虫の被害が発生しやすくなります。特に病気は、発生してからではなかなか治りません。そのため、梅雨時に予防防除を行うことで、野菜を病害から守ります。

薬剤を使う場合は、風の少ない日の午前中に散布し、できれば曇りの日にしましょう。

6月は野菜がよく育ちますが、雑草もよく育つ時期です。小まめに除草するようにしましょう。

収穫

6月はキュウリやナス、トマトの収穫が始まります。1番果（最初になる実）は、株を疲れさせないように早めに採ります。

タマネギの収穫は、茎葉が8割程度倒れた頃が適期です。薄皮の下に黒いカビが生えることがあります。畑が十分に乾いている時を見計らって収穫し、収穫後は高温多湿な場所を避けて保存すること、ある程度防ぐことができます。

ニンニクの収穫は、茎葉が3割程度黄変した頃が目安です。収穫の遅れは裂果や裂皮が増えるため、早めに収穫しましょう。

花作りの ワンポイントアドバイス

営農指導員 永奥 啓
ながおく けい

6月は挿し木繁殖の適期です

1 挿し木

花き類の繁殖は、種子や球根、株分け、挿し木（挿し芽を含む）など、多くの方法があります。

その中で、今回は比較的容易に繁殖ができる挿し木繁殖について説明します。



挿し木

2 挿し木の適期

花きの種類により、適期は異なりますが、多くの場合は芽や枝が伸びて、ある程度充実し、気温・地温も適温になる6月が最も成功しやすい時期といえます。

3 挿し木の用土

無病・無肥料で保水性があり、さらに通気性がある用土ならば何でも大丈夫です。

一般的に使われる鹿沼土でなくとも、本市の一部で取れるキビ土や山の赤土、真砂土、川の砂でも大丈夫です。失敗しやすいのは、

病原菌が多い畑の土です。使う場合は気を付けましょう。

4 挿し穂

挿し木をするために、親木から切り取って挿す部分を挿し穂といえます。

キクなどの草本類は、5〜6センチ程度の先端部分で、手でポキッと折りとれるくらいに若く、充実した芽を使います。

花木は、先端部分や茎の中間部分を使う場合がありますが、若くて充実した枝を使うことが大切です。

5 挿す前の処理

一般的には新鮮な挿し穂をすぐに挿せば、特に複雑な処理はありません。

ただし、発根が困難である場合は、発根促進剤として植物ホルモン剤を使うことがあります。

6 挿した後の管理

半日蔭の状態で、挿した直後はたっぷりと灌水し、その後は用土に水を含みすぎないように控えめに灌水します。用土に水を与えるのではなく、葉に水を与える形で管理します。

問い合わせ

農業振興課 農業振興係
0824-73-1131